任期終了報告だより

～第2期地域おこし協力隊の軌跡～

任期が
終了を
迎えます。

地域
おこし
協力隊

第２期地域おこし協力隊の３人が、任期終了を迎えます。

皆様にはたいへんお世話になり、ありがとうございました。

このたび、協力隊３年間の活動をご報告させていただくために、本小冊子を作りました。

お時間の許す範囲で、ご覧いただければ幸いです。

音村勇作

堺市出身の32歳。
1987年11月18日生まれ。

◆前職
・印刷の営業職

◆就任の動機
・農業を勉強したい
・自分で何かを作り出してみたい

松村竜司

岸和田市出身の54歳。
1966年8月8日生まれ。

◆前職
・会社員→地域おこし協力隊（和歌山）

◆就任の動機
・空気の良い所への移住
・持続可能な地域づくり
・程よい田舎暮らし

加藤裕則

大阪市出身の46歳。
1974年1月11日生まれ。

◆前職
・アナログゲームのゲームデザイナー

◆就任の動機
・田舎暮らしに憧れ
・大阪から単身赴任になるので近場がよかった

発行・編集：第2期地域おこし協力隊（2020年11月1日）

Mission

養蜂家活動支援
奈良市東部エゴマの郷支援

2017.10
着任

2020.9
終了

1年目
えごまと養蜂の基本を学ぶ。

・えごま栽培の基本を平清水の東功さんをはじめとしたエゴマの郷の皆さんより教わる。
・養蜂の初歩を鳴川の東一さんとそのご家族から学ぶ。

・生はちみつ「とうふの秘蜜」の販売を開始。

2年目
経験と失敗と視察と成長。

・今の奈良えごまに足りないものを分析するために、先進地である島根や福島を視察。
・奈良えごま油の化粧箱、ポスターなどを作成。商品として強化。
・ミツバチ飼育に初挑戦。はちみつを採取することに成功。しかしスズメバチにより全滅。未熟さを思い知る。

・販売のノウハウを知るために、イベントや露店などに多数参加。
・奈良の旬の駅や各直売所ほか、東京のまほろば館、ネット販売では食べチョクなど、販路を開拓する。

3年目
やりたいことの再確認。

・これまでやってきたことを振り返り、自分に向いていること、苦手なこと、そして楽しかったことを模索していくと、えごま栽培という結論にたどり着く。
・定住を目標に、えごまの栽培に完全集中。１人で９反ほど栽培。
・奈良市東部エゴマの郷の理事に就任。
・去年までの「エゴマの郷のお手伝い」から「生きて行くための農業」に意識が変化。

任期終了報告

加藤裕則

任期終了後は？

えごま農家として定住予定。

えごまだけで生計を立てるのはなかなか厳しいのが現実です。

クリアすべき課題も色々あるんですが、最終的には大阪の家族を呼んで、全員で東部に移住したいですね！

（加藤）

Mission

着地型観光の促進
都市農村交流推進

2018.1
着任

2020.12
終了

任期終了報告

松村竜司

1年目 地域を学ぶ期間。

・調べればわかる情報よりも自分自身の感覚で地域を知るために人に会う事を重視。
・公民館においてプチ田舎暮らし体験の講座があることを知り、積極的に参加。
・様々な体験を通じて講師役の地域の方々と親しくさせていただき、地域を知るための良い機会となった。

2年目 奈良さとやま民泊の取り組み。

・地域観光を考えた際に、ただ見るだけの観光ではなく、体験を通じて都市と農村が交流することも旅の楽しみ。
・奈良市東部地域で「泊まる／遊ぶ／買う／食べる」を組み合わせた体験型観光『奈良さとやま民泊』を推進することに。
・特に「体験」の部分は地域の素材であったり、文化や手仕事など、都市部の方が楽しめるものを商品化。

・また『奈良さとやま民泊』に参画された事業者同士の交流も重要であり、出張所と協働して様々なセミナーも開催。

3年目 定住に向けた活動。

・『奈良さとやま民泊』のパンフレットもできあがって、これからというタイミングでの新型コロナウイルスの影響で、観光分野では大きな痛手に。
・この状況下でできることを考えた末、先を見据えてスキルを高めるために旅行業務の資格取得、持続可能な地域づくりにつながる事業での起業との結論に。
・竹を活用した事業展開を考え、起業を決断。

任期終了後は？

観光支援と
竹パウダー
製造販売予定。

任期中の経験を生かして『奈良さとやま民泊』の支援の継続と、地域の放置竹林を活用して、竹パウダーや竹チップの製造販売、竹を使った体験講座などの都市農村交流につながる事業を展開します。
（松村）

音村勇作 任期終了報告

Mission

安全安心な農作物栽培とブランド化
有害鳥獣対策

2018.2
着任

2021.1
終了

1年目 農業を学んだ１年。

・農家の松本さんと南垣内さんの元で研修。
・NAFIC(旧農業大学校)に通学。
・新たな研修先として自然栽培でお米を育てている羽間さんに研修をお願いする。これから自分がどういう風に農を意識して生きていくかのターニングポイントに。
・罠免許を取得。

2年目 カレー作りに目覚める。

・狭川地域の農地を借りて、いろいろな野菜を栽培。完全無肥料、無農薬を目指す。
・田原公民館で男のカレー教室を受講。VANAMの落合さんにカレー作りを教わることをきっかけにカレーに目覚める。
・第一種猟銃免許取得。
・野迫川村、舞鶴に研修。ジビエ事業で食べていくことの難しさを知る。

3年目 見極めと決意の3年目。

・カレー屋としてやっていくことを決意。奈良市東部地域ならではの野菜とスパイスを合わせると相性抜群。とても美味しいカレーが作れることを発見。
・どこでも販売できるように、キッチンカーで起業を選ぶ。
・農作物を作るという農業ではなく、農とともに向き合いながら、自分でこれだと思う農法で、カレーに特化したものを栽培。トマトや唐辛子を収穫することに成功。

任期終了後は？

スパイス
カレー屋を
開業予定。

キッチンカーを使って奈良市東部地域産の野菜と、研修先でお世話になった方のジビエ肉を使用したスパイスカレー屋を開業します。どうぞ、お見知りおきのほどよろしくお願いいたします！

（音村）